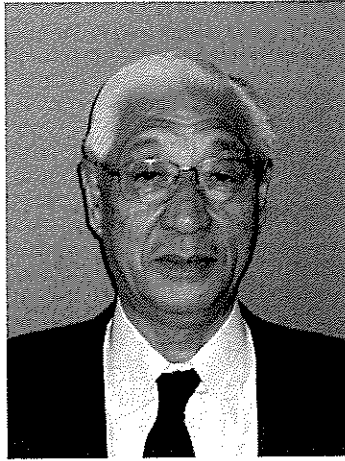


多くしま県人会だより

第19号
平成21年1月
福島県人会
北海道連合会

新年の「あいさつ」

会長 長谷川 顕



新年明けましておめでとうござい
ます。
県人会の皆様におかれましては、
輝きに満ちた新春を迎えられまし
たこととお慶び申し上げます。

昨年の連合会総会には、公務多
忙の中、佐藤雄平知事ご夫妻、遠
藤忠一県議会議長ご夫妻のご臨席
を賜り、大変有意義な総会を開催

できましたことに感謝申し上げます
とともに、美幌町県人会の皆様のご
尽力と、美幌町あげての歓迎には、
衷心より厚くお礼を申し上げます。
大変有難うございました。

昨年は、北方警備の防人として、
文化五年宗谷の地に会津藩が派遣
されて二百年、そして戊辰戦争百
四十年と、節目の年でありました。

昨年七月四日には、鶴ヶ城本丸
において、稚内県人会員数名と稚
内市長、利尻町長、利尻富士町長
等出席のもと記念のセレモニーを行
い、会津若松市と稚内市、利尻町、
利尻富士町の絆が以前にも増して
強固なものになったのであります。
今後においては、経済交流も活発
に進めたいと、大変有意義な記念式
典でした。

昨年は、諸物価の高騰等、政治、
経済的には大変暮らしにくい年でし
たが、もう一度しっかりと足元を見
つめ直して、明るく、健康に過ごし
て参りたいと思えます。

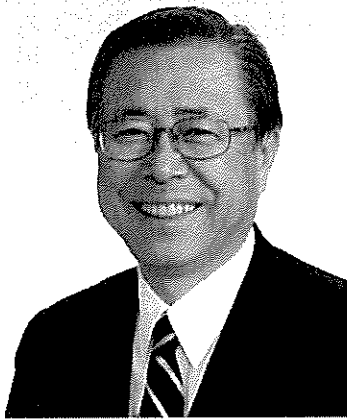
今年の連合会総会は、札幌県人
会の皆様のお世話になり、札幌の奥
座敷の定山溪で開催されることに
なっております。

年に一度の交流の場で会員皆様
の元気なお姿と、健康な笑顔にお
会いできますことを楽しみにしてお
り、多くの皆様のご参加をお待ちし
ております。

最後になりましたが、県人会員
皆様のご健勝とご多幸を祈念いた
しますとともに、くれぐれも健康
には留意されますことをお祈りし、
新年の挨拶に代えさせていただきます
す。

新年の「あいさつ」

福島県知事 佐藤 雄平



新しい年の初めに当たり、福島県
人会北海道連合会の皆さんの御多
幸を心からお祈り申し上げます。

昭和四十八年の発足以来、皆さ
んの県人会が、ふるさとを同じくす
る方々の心のよりどころとして、会
員相互の交流を深めながら、着実
に発展を続けられておりますこと
は、誠に喜ばしい限りであり、会員
の皆さんのふるさとを想う御熱意
に心から敬意を表します。また、皆
さんが、日ごろそれぞれの分野にお
いて御活躍され、福島県の名を大い
に高められるとともに、県勢伸展に
格別のお力添えをいただいているこ
とに対し、厚く御礼を申し上げます。

さて、今年の県政運営に当たりま
しては、私は、昨年来の急激な経済
の悪化から県民生活を守り、安定
させるため、経済・雇用対策を最優
先に、中小企業の資金繰り支援や
求職者への就職支援等に全力で取
り組んでまいります。

また、「活力」ある、「安全・安心」
な住み心地の良い、「思いやり」が息
づく県づくりという基本方針のもと、次の施策の推進に努めてまいり
ます。

「活力」につきましましては、地域産業・農林水産業の振興や企業誘致に取り組むとともに、観光の振興、県産品の販路拡大、定住・地域居住の推進に力を入れてまいります。また、三月に開催される「2009年FISフリースタイルスキー世界選手権猪苗代大会」への支援をはじめ、文化やスポーツによる地域づくりを進めていくほか、「うつくしま、ふくしま。」県民運動を推進し、「ふくしまの地域力」を磨いてまいります。

「安全・安心」につきましましては、昨年末に制定した「安全で安心な県づくりの推進に関する条例」に基づき、災害や事故、食の問題等への適切な対応に努めてまいります。さらに、地域医療の確保に向けた施策を推進していくほか、福祉の充実に取り組んでまいります。

「思いやり」につきましましては、安心して楽しく子どもを生み育てることのできる環境の整備に努めるとともに、確かな学力、豊かな心、健やかな体のバランスがとれ、社会性を備えた人づくりに取り組んでまいります。また、地球温暖化対策や本県の美しい自然環境の保全に向けた取り組みを進めてまいります。

今年策定する新しい総合計画に

つきましては、今の子どもたちが親の世代となる三十年ほど先を展望しながら、社会経済情勢の変化にも柔軟に対応できるような五年程度を計画期間とした上で、描いてまいります。

私は、未来に向かって県民の皆さんが夢と希望を持てる豊かな福島県を築いていくため、誠心誠意、取り組んでまいりますので、今後とも、県政運営に対する一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

終わりに、福島県人会北海道連合会の限らない発展と、会員の皆さんの今年一年の御健勝、御活躍をお祈りいたしまして、新年のごあいさつといたします。

会員通信

ふる里を思う心

北も南も同じ

苦小牧県人会 神野 修

”ふるさと”は

遠きにおいて思うもの

ふるさとの山は

ありがたきかな”

去る平成二十年九月十七日「全国うつくしま県人会交流会」が東京九段会館で開催され、苦小牧県人会の立場で、会長の小生と藤本幹事が参加しました。

北海道からは、札幌県人会の菅野会長と福島県北海道事務所齋藤所長も一緒でした。

北海道の私たちは単位県人会でしたが、東京福島県人会、東海福島県人会、関西福島県人会、ひろしま福島県人会は、県あるいは複数県での県人会、いわば北海道連合会のような形での参加でした。

会議の中で意見交換の場があり、

関西福島県人会では加盟する各県

人会が連合体としての活動をしているという報告を聞き、北海道連合会として一体の活動は可能かどうかを考えさせられました。

それぞれの報告は、ひとしく母県・ふるさを思う熱い心が滲み出て、北も南も思いは同じく熱いことを強く感じました。

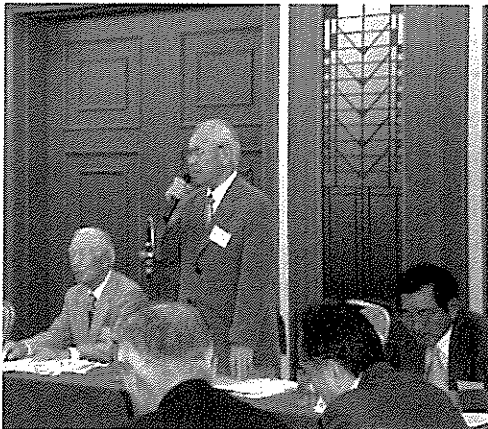
懇親交流会は、佐藤雄平知事も参加して親しく談笑され、また、東京福島県人会のご配慮で芸能福島県人会という福島を愛する芸能人のお楽しみ芸能があり、私たち北海道人も皆さんと情報を交換して親睦を深め合い、次回は東海福島県人会の担当で開催することを申し合わせて散会しました。

参加してとても良かったと、今も思っています。

楽しんだ合同観楓会

別海町県人会 大内 照雄

去る十月六日、道東近隣県人会「第二十六回合同観楓会」が、紅葉の名所、川湯温泉ホテル湯の関で、四十七名（別海町十名）の参加のもと、盛大に開催されました。



各県人会との意見交換

今回は浜中町県人会の皆様のお世話による開催となり、交流会の前に、健康作りに大いに役立つパークゴルフ大会を近く的美留和コースで行いました。

元気の会員の要望で、四コース三十六ホールの予定で開始しました。「何処に飛ぶの?」「ボールに聞いてよ!」、一打ごとに笑いと歓声。賑やかに進められました。途中から体が口ほどに言うことを聞かず、当初の予定から大幅に変更し、二コース十八ホールで終了。

後半に期待をかけたゴルフアールの残念な顔。歓声のこだまする森の中のコースは楽しいひとときでした。

ゴルフの後は汗を流し、疲れを癒すために温泉に入り、気持ちもゆつたりしたところで交流会・表彰式に臨みました。

美味しいご馳走を挟んで一年ぶりの顔なじみ。喋るほど、飲むほどに酔いが回ります。

体が大事と気を遣いながらチビチビお酒を飲む人、マイクを離さないカラオケの常連、歌にあわせて踊り出すダンス好きの仲間、それは元気で賑やかな宴会でした。

表彰式では、優勝して妻へお米のお土産ができた本人、今度は頑張るぞと来年にかける人、ハンディへの



フィナーレの北海盆踊り

注文も飛び出します。

何だかんだと時の過ぎるのを忘れ、次回開催の美幌町県人会の挨拶を受け、いよいよファイナーレ、北海盆踊りに手拍子が揃います。

大きな輪を作り、また来年も元気な体で再会できますことを約束し、お世話になった浜中県人会の皆様へ感謝をしながら二次会へ。年を忘れ、時を忘れ、夜の更けるのを忘れた楽しい交流会でした。

特集

母県との交流

昨年は、会津藩の北方警備に始

まった福島県と北海道の交流から二百年目に当たり、これを記念して、稚内市、利尻町、利尻富士町と会津若松市は、様々な行事を通じて交流を深めました。本特集では、交流二百年記念行事に参加した方から、そのときの様子をご紹介します。また、旭川市で長年にわたり、郷土の踊りの伝承と故郷訪問を続けている組織をご紹介します。

藩士と菊石

稚内県人会 大塚 允

宴は最高潮に達していた。

私は、隣の席となったI氏夫妻と、席に着くやいなや、自己紹介もそこそこに話し込んでしまっていた。

I氏を見るからに生粋の会津っぼらしく、木訥で、しかも好奇心溢れる人柄であることが私にはピンときたのだ。

最近、このような人に出会うことが少なくなっていたので、隣り合わせになったことをしばし感謝しなさいはいられた。

それに、奥さんが物静かな人で、旦那と話し込む異邦人・当方の饒

舌を、夫を上回る好奇心で聞いていくのであった。

その日(八月二十九日)は会津藩士墓参団の一行を迎え、稚内では名の通ったホテルで宴会が催された。これは、その時のひとコマである。



墓参団の会津藩旗

「今日、二時に空港に着いて、明日の朝の便で利尻に渡ります。明日になりまますか、宗谷の会津藩士の墓参は。」

「それじゃ、その時一緒に墓参りさせていただけますよ。」と私は言い、そして、十数年来温めてきた想いの一端を話したのである。

墓参に参加した方々の中に宗谷の警備に当たった藩士の末裔の方はおいででしょうか。おそらく、大嵐の後に宗谷清浜を散策し、菊の模様のある石を拾い上げ、「めずらしい

石だなあ」と会津の地に持ち帰った藩士がいたに違いないと。

それが今でも、床の間に鎮座していたり、土蔵の壁に何気なく塗り込められていたり、庭の片隅の智恵子が愛した安達太良に咲く太いシヤクナゲと同じ木の根元に苔むし、忘れられていたり、はたまた、その家に営々と引き継がれ、語り継がれていなかなど。

会津からやって来て、知り合ってまだ何時も経ってないI氏にぜひ聞いてもらわねばならない気分になつていたのだが、それは数杯のワインのなせる業だったのかも知れません。宗谷の地で「菊石」と呼ばれる化石は、六千五百万年前の地層から出る古生物のことで、菊の模様を持つた丸い形の石(アンモナイト)をいう。

白亜紀のない稚内の裏側、日本海沿岸の抜海の浜辺で明治三十八年に採取され、国立科学博物館に展示されているのを現にこの目で確かめている。そんな他愛のない話を熱を込めて語った。

そんな話を何の異論も挟まず、ここに聞いてくださったI氏は、おもむろに「実は、今年七月に北海道旅行をしたんです。そして、開拓記念館でお話に出たアンモナイト一

個を手に入れたんですよ。」と、両手で三十センチ程の円を描いてみせてくれた。

「へえー、そんなに大きかったら随分値が張ったでしょうね。」と、正直驚いて、失礼なことを口にしてしまった。

するとI氏は、さも、いたずらつ子が咎められたかのように、隣に座つて興味津々に聞いている奥さんに目を向け、首をすくめて「内緒です。」と、満面の笑みをたたえて答えるのであつた。

私は、そんな茶目つ氣たつぷりなI氏に、ますます好感を持つた。

「明日の朝、海岸を散歩してみようかな。」という氏に、「でも、ここからは遠いし、海が荒れたり流水が去つた後でないと、昔と違つて今はコレクターもうようよいあるし、拾うのは不可能だと思えますよ。」と話した。I氏は、一瞬いかにも残念そうな表情を浮かべたので、私は、「化石にそんなに興味があるんですか。それなら、私の採集物はたいしたことはありませんが、ちっちゃいものをお近づきの印にプレゼントしましよ。」と申し出た。

やがて宴はたけなわとなり、稚内名物のひよつと踊りの輪が出来て、会場は一層和やかな雰囲気漂い、



会津での交流

そしてお開きとなった。

明くる日、私は、十数年前に中川の雪解けの濁流から偶然拾い上げ、地元で畑作を営むN氏に磨いてもらったアンモナイトを持つて、昨夜宴会の行われたホテルを訪ねた。

I氏夫妻は、そこからほど近い稚泊航路の記念碑近くを散歩中であつたが、なんとか巡り会うことができた。

明後日の宗谷の会津藩士の墓参に参加できなくなつたことをお詫びして土産の化石を渡し、楽しかった夕べの話のお礼を述べてお別れした。

最近、私の朝食は玄米である。I氏が、一年食べ続けても食べきれないほどの「がんこ米」と名付けられたお米を送つてくださったのである。

おかげで、健康に良いといわれる糠のついたお米を、感謝の気持ちで込めて咀嚼し、食する毎日である。

七月初旬、白河口から間道を通つて会津へ入った私は、葉たばこの畑に目を奪われ、豊かに広がる田畑を抜けて城の街へ入った。

直木賞作家の講演で歴史への心眼の大切さを想い、シンポジウムでは各氏の博識に感動した。さらには、会津のお城に集まつたボランティアの皆さんの真剣な眼差しと、お国言葉をふんだんにちりばめた珠玉の話ぶりに、激しく心を揺さぶられる思いがした。鶴ヶ城、飯盛山の熱心な説明には脱帽である。

会津の風土には、忘れられた『日本の心』が今なお頑固に住みつき、沸々と息づいているに違いない。

今年登つた山の数以上の数々の感動をいただけたと、素晴らしい出会いに心から感謝したい。

心をつなぐ福島踊り

ペーパン福島踊り保存会

馬場 幸子

旭山動物園から東へ大雪山に向かつて十キロメートルほど行くと、福

島踊りを伝承している上、ペーパン地区があります。

この地区は、明治三十一年、福島県伊達郡太田村からの入植者によつて開拓された一集落です。

その頃、蝦夷開拓は国策であり、太田村においては、土地の狭さと人口の増加に悩んだ若き村長菊田熊之助が自ら団長となり、このペーパンの地に夢を繋ぎました。

しかし、想像を絶する北国の気象の厳しき、恐ろしいほどに立ちほだかる原始林、そして持ち金が底をつく貧困。団長を恨まない者はいなかつたといわれています。

そんな中でのある集会の夜、誰が唄うともなく口ずさんだ盆唄に、ある者は丸太を叩き、ある者は小鉢を打つて音頭を取ると、その音につられて人々が集まり、夜の更けるのも忘れて踊り明かしたと伝えられています。

入植翌年には、簡易教育所が建てられました。切り株を椅子にし、机は永山村の払い下げを荒縄で背負つて運んだそうです。現在は旭川第一小学校となつて地域の子供たちを育んでいます。

また、初代の教育者岡崎正明(神明宮神主)が福島から取り寄せた梅の樹は、今も校庭で地域を見守つ



地域の祭りで福島踊りを披露

ています。

入植以来踊り継がれた盆踊りは、事あるごとに人々の心を慰めてまいりましたが、現在は保存会が結成され、伝承活動が続けられています。

また、二十数年前には、一人の郷土史家によつて故郷への大きな橋が架けられ、今回は八回目の訪問を終えたところですが、六回目の訪問の際には、福島踊りの里帰りを実現しました。

故郷へ帰ることもなく没した先人たちの思いを踊りに込めて、保原町神明宮に奉納いたしました。

平成十八年には、入植百十年の

祝典が催され、伊達市長を始め多数の方にこの地を見ていただけたことは、何事にも勝る喜びでした。今、時の流れは農村を大きく変えつつありますが、人々が自然体で生きるこの大切さ、祭り太鼓や盆踊りが暮らしの中にあることの喜び、そんなことを目標に、ペーパン福島踊り保存会は活動を続け行きたいと思えます。

OBからのお便り

楽しかった北海道

第十四代次長 甲斐 敬市郎

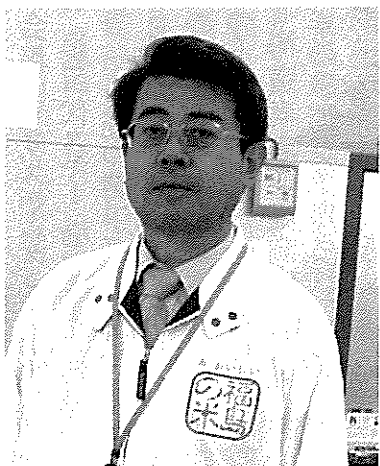
県人会の皆様、明けましておめでとうございます。皆様には、お元気で過ごしてのこととお喜び申しあげます。

北海道から福島県に戻つて、あつという間に八カ月が過ぎ去りました。現在は中通りの南端、白河市にある県南農林事務所勤めています。今回も単身赴任で、会津町にある県公舎に住んでいます。

北海道では、平成十七、十九年

度の三年間、次長として勤務しました。県人会の皆様には、大変お世話になり、ありがとうございます。三年間は公私ともに楽しい思い出ばかりで、時折アルバムを開いては懐かしんでいます。

最初に思い出されるのは連合会総会です。一年目の開催地は稚内市。知事御夫妻と会津若松市長を案内して、利尻島の会津藩士の墓、宗谷公園の旧藩士の墓をお参りしました。二年目は苦小牧市。苦小牧県人会にとっては初めての開催でしたが、白虎隊踊りやフラダンスショーなど、盛り沢山の内容でした。三年目は紋別市。各地区代表によるカラオケ大会で大いに盛り上がりました。私の話し方が訛っている(お国なまりが懐かしい)と、皆様から喜ばれたことが今でも印象に残っています。



ます。

札幌での生活は、真駒内の公舎に
単身赴任でした。赴任した年は、公
舎の裏庭に残雪があり、すっかり消
えたのは四月末でした。夏休みには
妻子を呼んで、道内各地を観光し
ました。札幌、小樽、富良野、函館
。北海道旅行は、家族にとつても
良い思い出になったと思います。

また、北海道は観光名所が多く、
奥尻島や松前町など、一部の地域
を除いてほとんど回りました。積丹
ブルーに神威岬、稚内西海岸からの
利尻富士と海岸線の眺め、夜行列
車で行った札文島の草花、知床峠か
ら見た国後島、琵琶瀬展望台、オホ
ーツクの流氷群等々、思い出を綴っ
たアルバムは三冊に及びます。

この他、ゴルフやパークゴルフも覚
えましたし、貴重な体験をさせてい
ただきました。

県人会の皆様の母県を思う熱い
心と優しさは一生忘れません。ど
うぞ皆様、末永くお元気で。

(会員通信及びOBからのお便りは、平成
二十年十二月ご寄稿のものです。)

新会員紹介

札幌福島県人会

上石節子(かみいし せつこ)会津若松市
間部賢司(まへ けんじ)会津美里町
丹治一隆(たんじ かずたか)伊達市

苫小牧福島県人会

田島みつい(たじま みつじ)川俣町
中川光子(なかがわ みつこ)相馬市
物江 等(ものえ ひとし)喜多方市

母県動向

「天地人」ゆかりの地

一月から始まった大河ドラマ「天
地人」は、戦国武将「直江兼統」の物
語ですが、兼統は県内にいくつもの
足跡を残しています。

慶長三年、主君の上杉景勝と共
に会津入りした兼統は、向羽黒山
城(会津美里町)の改修に着手し、
慶長五年には、神指城(会津若松
市)の築城に取りかかりました。
ところが同年、天下をねらう徳
川家康の会津征伐に備えた防御が
急務となり、築城は中止されます。

当時計画されていた城は鶴ヶ城の
二倍あり、完成すれば奥州一の城
となつたと言われています。

家康の会津征伐への防御では、決
戦の場と想定された石阿弥陀(白
河市)や会津へ入るルートの勢至堂
峠(須賀川市・郡山市)や母成峠(郡
山市・猪苗代町)に防塁を築き、鳴
山城(南会津町)の大改修も行いま
した。

関ヶ原の後、景勝は兼統を伴い、
裏磐梯(北塩原村)を通って米沢に
移りました。

ドラマで会津が舞台となるのは後
半のようですので、お楽しみに。
また、鶴ヶ城では、天地人展が行
われていますので、機会があらまし
たらご覧ください。

フリースタイルスキー世界選手権 猪苗代でもまもなく開催



平成二十一年三月二〜八日にか
けて、国際スキー連盟による「フリー
スタイルス
キー世界
選手権猪
苗代 大
会」が開
催されま
す。

日本での開催は九七年の長野県
以来、十二年ぶり二度目です。

会場は、リステルスキーファンタジ
ア、猪苗代スキー場、アルツ磐梯で、
世界三十国の選手が技を競います。
日本からは、上村愛子や里谷多
英の他、昨年の全日本選手権優勝
者の上野修(福島県)や村田愛里咲
(北海道尚志学園高校)等、期待の
選手の参加が予定されています。

編集後記

新年おめでと〜ございます。
今年の干支は「丑」。
ウシといえば、福島県人が思い浮
かべるのが「赤ベコ」。

赤ベコは、蒲生氏郷が殖産振興の
ために招いた技術者から伝わったと
され、平安時代に蔓延した疫病を
払った赤い牛に由
来します。

また、赤色は魔
除けになるといわ
れ、赤ベコを持つ子
供は災難から逃
れられるとされて
きました。

赤ベコの御利益により、幸多き年
でありますようお祈りします。

